

仕事と子育て

ポリテクセンター関西勤務の、山口先生から紹介されました。先生がポリテクセンター長崎に勤務されていた13年前、私が実務実習生として行ったのが縁で知り合いました。能開大卒業後も、2週間に一度は長崎へ遊びに行き、先生とはよく飲みよく遊んで青春時代を共に謳歌しました。家庭を持ち仕事に追われる現在は、昔のようにはいきませんが、今でも時々連絡をいただき、福岡でたまに飲んだりしています。

さて私は、平成7年に能開大を卒業し、福岡の建築設計事務所2社を経験し、現在は建設会社の設計員として働いています。プライベートでは今年7月に娘が誕生したばかりで、3歳になる息子、妻との4人暮らしです。共働きの我家は家業も分担制で、毎日が仕事、育児、家事に追われ「仕事と子育ての両立」が課題となっています。子どもが生まれる前までは、会社に1日12～15時間ほど居ましたが、今は子どもの保育園の送り迎えがあり、9時間程度しか居られません。滞在時間が短縮されたなかで、変わらぬ仕事量をこなすのは大変です!! クタクタになって帰ってきて、ほっとできる自分タイムなんかほとんどありません。(妻も同じですが)とにかく、何もかもが子ども中心です。

「三つ子の魂百まで」ということわざがありますが、特に今は「親子にとって大事な時期じゃないかな。」と思います。ですから会社は「pm6時20分に退社する。」と決め、仕事に取組んでいます。もちろんそれは、家族そろっての食事(一家団欒)をとるためです。仕事中は常に時間を意識し、段取りよく進めます。それでも建築設計という職業は、答えのないものに答えを見いださなければならない仕事で、就業中に自分の納得する答えが見つからないときもあります。そんなときは仕事を家に持ち帰って子どもたちが寝静まった後、建物のデザインや、家の間取りなど考えたりします。また1, 2歳児は病気にかかりやすいので、妻と協力し、有給をとって病院に連れて行ったり、1人目を仕事の打ち合わせに連れて行ったこともありました。独身時代はすべての時間を自分のために使っていましたが、今はほとんど子どものために使っています。共働きしながら子育てする(仕事にも子どもにも責任を持つ)ということがどれだけ大変か身をもって体験しています。と同時に、建築設計とい

う仕事が“趣味の延長”から“家族を養っていくための手段”へと変わっていていることを感じます。その分責任感も増したかな?

ところで、最近嬉しいことがありました。私の会社は、賃貸マンションを手がけることが多いのですが、104戸と大規模なマンションを設計することがありました。エントランスには雨の日でも濡れることなく子どもや荷物に乗せ降ろしできるように、ホテルのロビーのような車寄せを計画し、従来の間取りに加え、家事の動線を優先した新しい間取りを取り入れました。今年9月にそのマンションが竣工しましたが、新しい間取りが人気で完成前に満室となりました。女性建築家に多いように、家事や子育てを経験するということが設計に生き、体験を生かした設計が結果につながった嬉しい出来事でした。

どの業界でもいえることですが、仕事と子育てを両立させることは非常に大変なことだと思います。仕事において、時には割り切りが必要な場合もあると思います。しかし子育てに学ぶことは多く、それが仕事の成果に結びつくこともあると思います。これからも子育てに積極的に参加し、家族に、人に、優しい設計ができる設計士になれたらいいなと思います。



今回のリレートークは、7, 8年ぶりに連絡をとると、敬語を使って話していたまじめな船木くんです。彼は能開大の同期ですが、現在沖縄職業能力開発大学校で活躍中です。それでは、よろしくお祈いします。